

平成 24 年度 第 4 回 円卓会議(びわコミ会議)運営委員会 議事録

日時	2012 年 7 月 24 日 (火) 18:15～20:30	
場所	県庁新館連絡通路 4-A 会議室	
出席者 (50 音順、 敬称略)	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部
	石河 康久	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	伊吹 美賀子	琵琶湖流域ネットワーク委員会
	川端 隆弘	公益財団法人 淡海環境保全財団
	北田 俊夫	NPO 法人 びわこ豊穰の郷
	小林 泉	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
	関 慎介	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	田仲 輝子	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	中野 隆弘	びわ湖エコアイデア倶楽部
	松沢 松治	びわ湖の水と地域の環境を守る会
	三和 伸彦	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	村上 悟	NPO 法人 碧いびわ湖
	望月 孝幸	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
渡辺 維子	公益社団法人 滋賀県環境保全協会	

※今回欠席(敬称略)：野田晃弘(NPO 法人 蒲生野考現倶楽部)、堀彰男(滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会)、山口美知子(滋賀地方自治研究センター)

今回の決定事項(要約)

- ・ びわコミ会議運営委員会委員長は、満場一致で松沢松治氏に決定した。
- ・ 第 2 部の分科会は以下の 3 班に分かれて議論する。
 - 1) アユ班(川の上流～琵琶湖までのつながり)
 - 2) フナ班(水田・内湖～琵琶湖までのつながり)
 - 3) メダカ班(山・里・湖のつながりを取り戻すための交流・学習(仮))
- ・ 第 1 部・第 2 部の人選や具体的な進め方については、今回の議論を踏まえ、早急にファシリテーターと協議の上決定していく。
- ・ 次回運営委員会はびわコミ会議の直前に開催し、当日の流れなどを委員で確認する場とする。

1. 設置要綱・運営要領・運営委員会委員長について

びわコミ会議(運営委員会)の設置要綱・運営要領・運営委員会委員長について琵琶湖政策課より説明があり、下記の通り決定した。

- ・ 設置要綱における「円卓会議」の名称を「びわコミ会議」に修正した。
- ・ 運営要領に「びわコミ会議の名称」に関する項を追加した。
- ・ びわコミ会議運営委員会委員長は、満場一致で松沢松治氏に決定した。

2. 第 2 回びわコミ会議の進め方について

(1) 7/18 ワーキング議論の振り返り

琵琶湖環境科学研究センターより 7/18 に開催したびわコミ会議ワーキングでの議論の結果について

下記の通り報告を行った。

- ・ 分科会での議論のポイントが以下の通りであることを共有した。
 - 一般論から脱却し、「つながりを取り戻そうと言っても、なぜそれが容易には進まないのか」について、対立点が見えるまでしっかりと議論する。
 - 前回の円卓会議のように必ずしも全員参加にせず、基本はパネラー同士で議論しながら、適宜聴衆にも意見を伺うような形にする。
 - 対立したときに、どこで妥協できるのか、あるいは第三の道があるのかということまで議論を深める。
- ・ 分科会の分け方（それぞれのテーマ）について、「場」（内湖、川、ため池、田んぼなど）、「手法」（環境学習、魚の道、ゆりかご水田、内湖再生など）、「魚種」（アユ、ビワマス、フナ、ナマズなど）、「地域」（天野川、早崎、家棟川など）といった案が提示されたが、前述のポイントなどを踏まえた結果、下記の通り「手法」＋「魚種」（手法のシンボルとしての活用）の形で分類する案が提案された。
 - アユ班（川の上流～下流までのつながり）
 - フナ班（湖と水田・内湖のつながり）
 - ナマズ班（環境学習、CSR、交流）
- ・ 第1部については、以下の手順を進める。
 - 「さかなの旅、ふたたび」に関連の深い指標（漁獲量、水質等）について、琵琶湖政策課から説明を行う。
 - 魚・水質・生態系の専門家、漁師などから、数値として表れないことを含めコメントをもらう。
 - 全体で ML21 計画の評価に関するディスカッションを行う。

以上を踏まえ、委員からは下記の通り意見が提示された。

- ・ 「ナマズ」が環境学習等のシンボルとしては分かりにくい（生活史がフナとも類似する）。そのため、「メダカ」に変更する。
- ・ メダカ班のテーマである交流・学習といった観点を、他の2つの班とどうつなげていくのかが見えない。
 - アユ班、フナ班に共通する「どうすればつながりを取り戻せるか」のソフト部分と捉える。
 - 現在県内の団体等が、自分たちの活動を「魚のつながり」という視点から見直す場とする。
 - 交流・学習を通じた「魚と人のつながり」と解釈してはどうか？
 - ☆ しかしそうすると、他の2つのテーマ（物理的なつながり）とずれが生じてしまう。
 - 「物理的なつながりを取り戻すための交流・学習」と解釈して、テーマ名を再考する。

(2) 第2回びわコミ会議の進め方

第2回びわコミ会議の進め方について、委員からは下記の通り意見が提示された。

1) 第1部(ML21計画の評価会議)

- ・ 評価会議のアウトプットとして、良い、悪いといった評価を提示するかどうか？
- ・ 第1部に参加してもらおうパネラーには、第2部にも参加してもらえるとよい。

2) 第2部(ディスカッション)

- ・ 導入部で旗揚げを行うかどうか？

- ▶ 少なくとも、班分けの調整のために必要と考えられる。アイスブレイクとしての活用は要検討。
- ・ 第2部のアウトプットをどのような形とするか？
 - ▶ 各分科会で「こうしましょう!」「私はこれをします!」といった目標・約束(コミットメント)を立てて、全体で共有してはどうか。
 - ▶ 目標・約束まで議論するのは難しいかもしれない。対立点や課題、アイデアを共有することにとどめ、次に活かしていくことが大事ではないか。
 - ▶ 目標を皆で共有するために、最後に旗揚げを行い、「〇人がこれに賛同した」というようなアウトプットでもよいのではないか。
 - ▶ 「私はこれをします!」を各自に認識してもらうために、旗揚げやフリップなどを活用するとよい。
- ・ 第2部における議論のポイントやアウトプットなど、開催にあたっての「思い」に関連する事柄について、オープニングの趣旨説明などの場で説明することが必要である。

(3) 第1部・第2部の人選

第1部・第2部でコメントなどをもらうパネラーの人選について、後述ホワイトボードのメモの通り案が提示された。今後、早急にファシリテーターとの詳細な議論を踏まえ人選を確定し、依頼を行っていくことにする。

3. チラシについて

チラシについて、委員からは下記の通り意見が提示された。

- ・ 「嘉田知事来場」→「嘉田知事も参加します(予定)」という表現に変更する。
- ・ 嘉田知事には、全体セッション2においてコメントをもらえるよう依頼しておく。
- ・ チラシには「さかなの旅、ふたたび」がイメージできるよう魚のイラストを追加する。
- ・ 第2部のタイトルは、「みんなでつながりを取り戻そう!」という表現に変更してはどうか。

4. 次回運営委員会での検討項目について

次回運営委員会はびわコミ会議の直前に開催し、当日の流れなどを委員で確認する場とする。日時は以下の通り。

日時：2012年9月12日(水) 18:15～20:30頃

場所：滋賀県庁(会議室未定)

議事次

- ① オ2部の進め方 (びわこ会議) (分科会テーマ、アウトプット、メンバー等)
- ② オ1部の進め方 (評価会議) (指標、メンバー等)
 - びわ湖から指標の説明 (魚か量、水質)
 - 各分野からの評価 (数値に出ていること) コメント有
- ③ ロジ関連
 - ・ チラシ
 - ・ 依頼文
 - ・ プース出展

魚の視点

アウトカムに注視!

可能な限り経年変化

良い・悪いの評価

場

- ・ 内湖 (湖辺域)
- ・ 川
- ・ ため池
- ・ 田

山?

手法

全体ギオン

- ・ 活動を深化 (どう広げられるか?)
- ・ 専門化?
- ・ 既にやられている?

地球

魚ごとにどんな生活史? → 話題提供

目標を共有できる話題提供 (固有種・在来種がにぎわう)

アウトプット

- ・ どうやってツボがりを取り戻すのか?

→ 手法をイメージしてグループ分け

場所、魚

(湖辺域)

山?

手法

全体ギオン

- ・ 活動を深化 (どう広げられるか?)
- ・ 専門化?
- ・ 既にやられている?

地球

生活史? → 話題提供

共有できる話題提供 (固有種・在来種がにぎわう)

ツボがりを取り戻すのか?

手法をイメージしてグループ分け

場所、魚

環境学習

- ・ 学校
- ・ 治水
- ・ 魚の道 (土木) (堰・ダム) (和歌山)
- ・ 環境
- ・ ゆりかご水田 (農業) (彦根)
- ・ 内湖再生 (x復元)
- ・ 放流

魚種 副題

- ・ アユ → 川 (上流)
- ・ ビワマス → 川 (上中流)
- ・ フナ (ニゴロ) → 田
- ・ ナマズ
- ・ コイ
- ・ (ウナギ) ・ ボナジャコ (シナゴ)
- ・ イサザ → 鉛直移動
- ・ 外来種 ... < 除ける? 共有?

村の視点 (利害関係者) から

- ・ 天野川 (和み合わせ)
- ・ 早崎ビオトープ
- ・ 家株川

→ 話題提供として

Point

- ・ 必ずしも全員参加でなくてよい
- ・ 一般論・ギオンからの脈絡
- ・ 課題を与える (自己満足で終わらない) ・ 人の生活に引き戻して考えた時、どこで

単純じゃない!

対立点が見えるまでギオン

行政、市民... (し果だからできる!)

治水

環境

農業)

再生

復元)

肉係者)から

ギオン

せ)

魚種 副題

- ・ アユ → 川 (上流)
- ・ ビワマス → 川 (上中流)
- ・ フナ (ニゴロ) → 田
- ・ ナマズ
- ・ コイ
- ・ (ウナギ) ・ ボナジャコ (シナゴ)
- ・ イサザ → 鉛直移動
- ・ 外来種 ... < 除ける? 共有?

Point

単純じゃない!

対立点が見えるまでギオン

行政、市民... (し果だからできる!)

共有でなくてよい

ンからの脈絡

る (自己満足で終わらない) ・ 人の生活に引き戻して考えた時、どこで妥協できるか? OR オ2の道

- ・ アユ班 治水, 農業用水, 治山治水, 漁協 (和歌山), 魚道 (和歌山) 岸防
- ・ フナ班 川 (和歌山), J.A., 一般農家 事前, 土地改良, 農政担当, 米の普及員
- ・ ナマズ班 和歌山, 学校, 教育委員, 企業 (NPO), 大学生
- ・ (環境学習) CSR, ボナジャココロシアム

⇒ 発表・学習

- 全体1: 生活史の解説 (35)
- 分科会: (80-110)
- 全体2: 分科会の共有 (50)

【当日のホワイトボードのメモ】

議事次第

- ① 要綱・委員長等
- ② びわこ会議
 - (1) 前回WGの確認
 - (2) 全体の流れの確認
 - (3) ポ1部, ポ2部の詳細 (内容, 人選, etc)
- ③ 4ラシの確認
- ④ その他(ブス, 連絡, プス)

(1) 前回の確認

- ・ ナマズ → ヌダカ?
- ・ 交流 学習 ⇒ どう他の2つとつなげていく?
 - ・ 「どうすればつながりを取り戻せるか?」のソフト部分
 - ・ 例: 「ゴミ拾いから」 「ゴミを捨てない社会へ」
- ・ さかみの後 ⇔ 交流・学習
 - ・ 山〜里のつながり? → アユ班に含む
 - 「交流・学習を通じた(魚と人の)つながり」 → 他2つのテーマと少しずれる?
 - 家棟川: 食とのつながり + 山川里湖のつながり(ビワマス)
 - ⇒ 「生物学的つながりを取り戻す為の交流・学習」
 - というニュアンスでテーマ名再考

今やっている活動も「魚のつながり」という視点から見直す

(2) 全体の流れ

ポ1部

- ① 様々な指標で見る琵琶湖の現状
- ② 各パネラーからのコメント(生態系, 魚, ...)
- ③ 全体でのギロン

Point ・ 良い・悪いといった評価(アウトプット)ね?

・ ポ1部下のパネラーはポ2部にも参加

ポ2部

- ・ 旗あげを導入に使うか?
- ・ 最後のアウトプットどうするか?(TOP5等)
- 何が難しいか? 文意点, は? 明らかにするのでも
- 各分科会で, 「こうしましょう!」という目標を立てる

コメントの共有 木は少しだけ → 全体で共有

しかしこれが出せるか? →

分科①
目標

②
目標

③
目標

→ **課題** **アイデア** → 次に活かすことが大事 (必ずしも結論を求めない)

- ・ 前提となる「思い」をはじめに共有しておく
- ← オープニングの趣旨説明でも
- ① 目標を皆で共有 → 「〇人がこれに賛同」などでもいい
- ② 自分はこれをしよう! を認識 → 旗あげ, フリップボード
- 皆の道が出てきたらいい
- 全体セッション2でコメント(予定)

4ラシ

- ・ 知事 → 「参加します(予定)」
- ・ 魚のイラスト
- ・ ポ2部 「みんなでつながりを取り戻そう!」

WS

予定 全体での会議: 直前確認

10. 11. 12. 13. 14
2 2 2 2 1

オ1部

(指標) 漁獲量
水質

(人選)

- ・ 移動経路・生態系 → 西野
- ・ 漁師 → 松沢
- ・ 魚 → 金尾, 藤岡
- ・ 水質 → (プランクトン数) - 瀬
- ・ フミガリ → 田中(夫)

オ2部

(((〇 〇)))
~~〇〇 (日釣振)~~

アユ ファシ: 高田(辰彦)
寺川, 辻(流域治水), 田中(水試)
桑村(食ラウ), 戸田, 鳥塚
〇〇(鮎屋)

アト ファシ: 西塚(平和堂)
堀, 青田(農振)
松尾(主婦), 松沢, 田中(料理社)
国松(国王)

×ダカ ファシ:
中野, 西塚(しか銀)^{CSR表}
中村大輔, 島川(環境レカズ)
小坂育子, 〇〇(日釣振)

アジリ ファシ:
平山, 佐々木, 佐藤
村上, 山口, 中野, 三和

- 以上 -